

アジア太平洋労働安全衛生機構（APOSHO）

中央労働災害防止協会 50周年 祝辞

中央労働災害防止協会翻訳

このたびの中央労働災害防止協会（中災防）の50周年の慶事に、お祝いを申し上げる機会をいただき、誠に光栄に存じます。

中災防は、アジア太平洋労働安全衛生機構（APOSHO）に1986年に加盟し、1988年、1989年と2年連続で、日本においてAPOSHOの年次総会を開催いたしました。

これまで、中災防は、アジア太平洋地域内の労働安全衛生の関係各組織に対して、非常に多くの専門的な労働安全衛生分野の教育・訓練プログラムを提供し続けており、その中の大多数の組織が、APOSHOのメンバーとなっています。この貴重な支援は、受講者の知識を向上させるだけでなく、結果として、域内の地域社会へ幅広く好影響を与えてきたところです。

半世紀に及ぶ中災防の歩みは、大きなものであって極めて成果の高いものです。APOSHOにとりまして、中災防が名声のある会員として参加されていることについては、非常に名誉なことであり、また、APOSHOの振興に大いに貢献と関与をなされていることについては、真に賞賛に値します。アジア太平洋地域において、労働安全衛生の究極の目的を達成するためには、多くの課題が山積しています。私は、APOSHOと中災防がともに手を取りあってすばらしい継続性を実現し、それに伴う輝かしい成果を得ることを願っています。

この貴重な50周年という記念すべき貴重な機会に接し、中災防の一層のご発展と輝かしいご成功をお祈り申し上げます。

チャーミン・ロウ
APOSHO 事務局長